

研究計画概要

助成年度・種別	2022年度 一般研究助成
研究代表者	柴田 守
所 属	長崎総合科学大学
研究テーマ	COVID-19 対応下における人の流動性の低下と窃盗の関連 — 一時系列分析による検討 —
研究計画概要	<p>COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の感染拡大を抑制するために、世界各国の政府が行った封じ込め政策によって、私たちの日常生活が大きく変化したが、その副次的な影響で、犯罪の動向にも変化が生じていることが海外の研究レポートにより分かってきた。</p> <p>そこで、本研究では、日本国内でも同様の傾向が生じているという仮説のもとに、①都道府県警察が提供する窃盗犯のオープンデータ(<ひったくり>、<車上ねらい>、<部品ねらい>、<自動販売機ねらい>、<自動車盗>、<オートバイ盗>、<自転車盗>)と、②民間会社が提供する人流定点観測データ(全国2万か所以上の人流を定点観測したデータ)などの日別の時系列データを用いて、時系列分析(ある一定間隔の時間に対して観測されているデータの周期性や傾向から将来を予測する手法)を行って、[a]犯罪動向の短期的変動における COVID-19 の封じ込め政策の影響度、[b]日常活動理論の妥当性・信頼性、[c]海外の調査結果との比較に見る日本の特徴について検証する。</p> <p>これにより、COVID-19 の副次的な影響を明らかにするとともに、刑法犯の認知件数(総数)の約7割を占める窃盗の一部の発生を抑制するメカニズムの解明を目指す。</p>
選考委員からのコメント	<p>コロナ禍と犯罪発生状況に大きな変化が生じ始めているが、その点に関する本格的な研究は皆無といってよい。窃盗の減少が見られることを、データ分析を踏まえて明確に指摘した上で、「人流の抑制」を切り口として、手口ごとの犯罪発生率の詳細な検討を行うなど、提案された分析の具体的な内容を是非実現していただきたい。日本の、感染症・人流と犯罪の因果モデルによる分析は、海外でも評価されると思われる。逆に、今後蓄積されるであろう海外の研究との比較の視点からも、本研究は将来的発展が期待する。</p>